

# 川越市観光アンケート調査

---

## 報告書

平成25年度



川越市マスコットキャラクター

ときも

平成26年5月

---

川 越 市

## 目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1. 平成25年川越市入込観光客数の概要 | 2  |
| 2. 観光アンケート調査の統計・分析   | 3  |
| 2-1. 観光アンケート調査の趣旨    | 3  |
| 2-2. 観光アンケート調査の方法    | 3  |
| 2-3. 観光アンケート調査の結果    | 5  |
| 2-3-1. 出発地           | 5  |
| 2-3-2. 性別            | 10 |
| 2-3-3. 年齢            | 11 |
| 2-3-4. 同行者           | 11 |
| 2-3-5. 交通手段          | 12 |
| 2-3-6. 滞在期間          | 13 |
| 2-3-7. 宿泊観光客         | 13 |
| 2-3-8. 観光時間          | 15 |
| 2-3-9. 来訪回数          | 15 |
| 2-3-10. 認知方法         | 16 |
| 2-3-11. 立ち寄り観光地      | 17 |
| 2-3-12. 交通費          | 18 |
| 2-3-13. 宿泊費          | 18 |
| 2-3-14. 飲食費          | 19 |
| 2-3-15. 入館料・入場料      | 19 |
| 2-3-16. お土産品購入費      | 20 |
| 2-3-17. 要望           | 21 |
| 2-3-18. 意見・感想        | 22 |
| 3. 観光消費額             | 23 |

## 1. 平成25年川越市入込観光客数の概要

平成25年に川越を訪れた観光客数は630万2千人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ6万5千人の増加（1.0%増）となった。

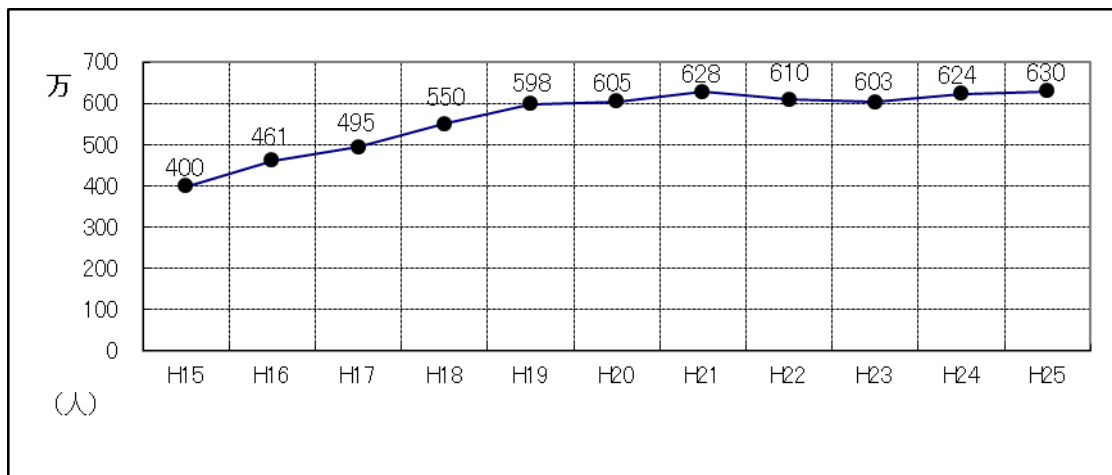
川越市立の5館については、川越まつり会館を除く4館において観光客数が増加した。市立博物館では約1,200人（前年比で1.9%増）、市立美術館では約1万1千人（前年比で16.0%増）、川越城本丸御殿では約1万1千人（前年比で13.1%増）、蔵造り資料館では約4千人（前年比で7.8%増）増加した。

各種行事については、来場者数が天候に大きく左右された。天候に恵まれた小江戸川越春まつりフィナーレイベントでは、前年よりも10万3千人増（前年比で187.3%増）であった。川越まつりは、悪天候であったため、入込観光客数が2日間で56万2千人にとどまり、前年よりも約47万4千人減と、大幅に減少した（前年比で45.8%減）。また、百万灯夏まつりは、約2万5千人減（前年比で14.7%減）であった。小江戸川越花火大会は、約5万人の減少（前年比で33.3%減）であった。産業博覧会は台風28号により中止となった。

川越まつり等の各種イベントが悪天候により、来場者数は減少したが、まちなかのカウント調査や観光施設の来場者数が大きく増加した。これは平成25年3月16日に開始した鉄道5社による相互直通運転や、直通運転に係る各種観光PRキャンペーン及び直通運転に関連したテレビ・新聞等の報道を通して広く川越がPRされたことが、観光客増加の要因として挙げられる。

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

（表1） 過去10年間の川越市入込観光客数



平成25年の外国人入込観光客数は、45,000人と、平成24年に比べ、約2.2%の減少となった。

主な要因としては、カウント調査や、聞き取り調査では、増加が認められたが、主要イベントが悪天候により入込観光客数が伸びなかったことが、外国人観光客数の減少につながった。

増加した部分については、円高の是正による旅行費用の割安感の浸透や7月より開始された東南アジア諸国の査証緩和措置、訪日プロモーションの継続、LCCなどの新規就航などにより、日本全体の訪日観光客数が増加したことによる影響とみられる。

## 2. 観光アンケート調査の統計・分析

### 2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、アクセス方法、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

これまでに、平成 17 年（標本数：9,924 件、調査期間：平成 17 年 1 月～平成 17 年 12 月）、平成 19 年（標本数：7,491 件、調査期間：平成 19 年 1 月～平成 19 年 12 月）、平成 20 年度（標本数：9,341 件、調査期間：平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月）、平成 21 年度（標本数：6,197 件、調査期間：平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）、平成 22 年度（標本数：6,243 件、調査期間：平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月）、平成 23 年度（標本数：6,283 件、調査期間：平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）、平成 24 年度（標本数：6,366 件、調査機関：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）と当調査を実施してきた。

当調査の実績に基づき、平成 25 年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

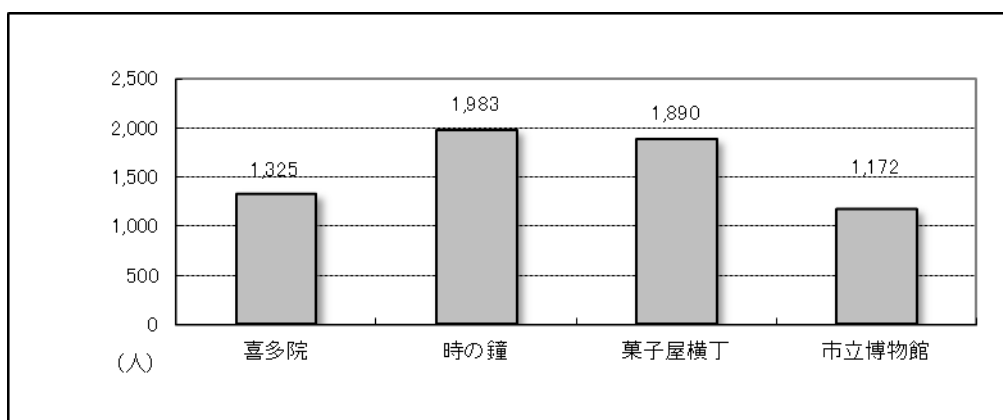
### 2-2 観光アンケート調査の方法

平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの 1 年間を調査期間とし、主要観光地点 4 ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計 6,370 件の観光アンケート調査を実施した。

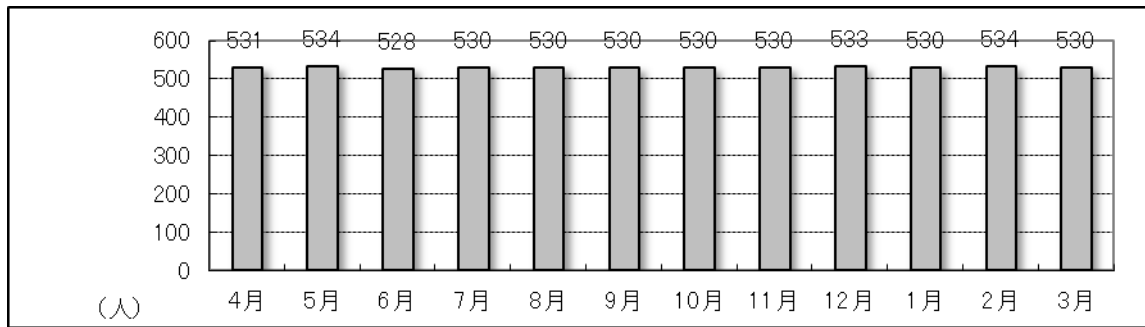
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は（図 1）のとおりである。

また、（図 2）のとおり、6,370 件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

（図 1） 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図2) 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率(%)で表示しているものもあるが、小数点第2位で四捨五入しているため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。

(参考) 実際に使用した観光アンケート調査票

(表)

**川越市観光アンケート調査票**

※調査員の方へ  
アンケートの欄は、右の地点、年、月、日の欄を最初に数字だけ記入し、問1以降は該当する項目を丸で囲み、その後右欄へ記入してください。右欄が点線の場合は記入しないでください。

問1 お住まい、性別、年齢をお答えください。

(1) 都道府県名( ) (海外の方は国名)  
※埼玉県、東京都、千葉県にお住まいの場合は、市区町村名( )

(2) ①男性 ②女性

(3) ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60歳以上

問2 どなたといらっしゃいましたか。(ひとつだけ)

①ひとり ②夫婦 ③子供連れ家族 ④その他家族(両親や兄弟など) ⑤友人知人 ⑥仕事仲間 ⑦地域の団体 ⑧学校の団体 ⑨その他

問3 川越までの主な交通手段は何ですか。(ひとつだけ)  
※複数の交通手段を利用している場合は、最後に利用した交通手段

①JR線 ②東武線 ③西武線 ④路線バス・タクシー ⑤観光バス ⑥自家用車 ⑦バイク・自転車 ⑧徒歩

問4 川越へ滞在される(された)期間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①1泊 ②2泊 ③3泊 ④4泊以上 ⑤1日 ⑥1日以上

問5 川越での観光時間はどのくらいですか。(ひとつだけ)

①1時間程度 ②2時間程度 ③3時間程度 ④半日 ⑤1日 ⑥1日以上

問6 川越にはこれ何回目のご旅行ですか。(ひとつだけ)

①初めて(1回目) ②2回目 ③3回目 ④4回目以上

(裏)

問7 川越をどのようにしてお知りになりましたか。(複数回答可)

①テレビ・ラジオ ②ポスター・パンフレット ③新聞・雑誌 ④旅行会社等のツアー ⑤インターネット ⑥知人などに勧められて ⑦最初から知っていた(地元の方も含む) ⑧その他( )

問8 川越市マスコットキャラクター「ときも」をご存知ですか?

①知っている ②知らない

問9 川越のどこを観光されます(ました)か。(複数回答可)

①蔵造りの町並み ②時の鐘 ③菓子屋横丁 ④蓮多院 ⑤蔵造り資料館 ⑥川越まつり会館 ⑦市立博物館 ⑧市立美術館 ⑨川越城本丸跡 ⑩蓮華寺 ⑪永川神社 ⑫成田山川神社 ⑬小江戸蔵里 ⑭その他( )

問10 川越市内において、一人あたりいくらくらい使われます(ました)か。

(1) 交通費(市内バス、又はタクシー代) 円  
※タクシーを複数人で利用の場合は、人数で割った額

(2) 宿泊費 円  
(3) 飲食費 円  
(4) 入館料・入場料 円  
(5) お土産品購入費 円

問11 川越に対しての要望についてお聞かせください。(複数回答可)

①交通の安全性の向上 ②駐車場の整備 ③観光スポットの充実 ④無料休憩所・トイレの整備 ⑤観光案内板の整備 ⑥ポケットパークの充実 ⑦観光パンフレット・ガイドの充実 ⑧障害者への配慮 ⑨レンタサイクルの充実 ⑩その他( )

ご協力ありがとうございました。

また、調査にご協力頂いた観光客に対しては、調査終了後に「千社札シール」を手渡した。

(参考) 千社札シール



## 2-3 観光アンケート調査の結果

### 2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,370 人のうち、国内が出発地の観光客は 6,168 人、国外が  
出発地の観光客は 197 人だった（5 人は不明）。

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

#### (1) 国内

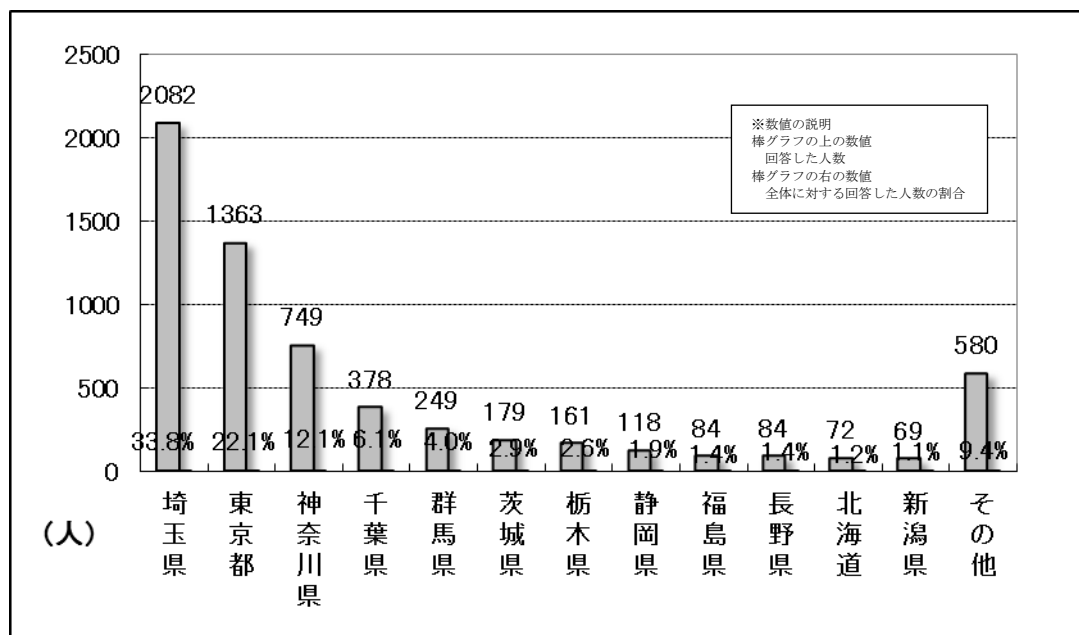
##### ①都道府県別

川越を訪れた観光客の 8 割以上が関東地方の各都県から出発していた（図 3）。特に、  
県内市町村および東京都を出発地とする観光客の割合が 55.9%であり、全体の過半数  
を占める結果となった。これは、都心から 1 時間以内で訪れることのできる立地特性  
が要因となっているものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出発地とする観光客の割合は 44.1%であり、  
前年度より 5.2 ポイント上回る結果となった。神奈川県からの観光客数が平成 24 年度  
（575 人、9.2%）から、平成 25 年度（749 人、12.1%）と 2.9 ポイント増加した。平  
成 25 年 3 月 16 日から横浜と川越を結び、みなとみらい線・東急東横線・東京メトロ  
副都心線・西武池袋線・東武東上線の鉄道五社による相互直通運転を開始したことによ  
り、横浜方面からのアクセスが便利になったことが要因とみられる。

関東地方の各都県以外では、静岡県（118 人・1.9%）、福島県（84 人・1.4%）、  
長野県（84 人・1.4%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県  
別出発地は表 2 のとおりである。

（図 3） 出発地



(表 2) 都道府県別出発地

| 地方    | 件数      | 都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数                                                              |
|-------|---------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 関東    | 5, 224人 | 埼玉県(2,082), 東京都(1,363), 神奈川県(749), 千葉県(378), 群馬県(249), 茨城県(179), 栃木県(161), 山梨県(63) |
| 東北    | 230人    | 福島県(84), 宮城県(56), 山形県(30), 青森県(26), 岩手県(21), 秋田県(13)                               |
| 東海    | 202人    | 静岡県(118), 愛知県(63), 三重県(13), 岐阜県(8)                                                 |
| 北陸・信越 | 183人    | 長野県(84), 新潟県(69), 富山県(15), 福井県(10), 石川県(5)                                         |
| 近畿    | 121人    | 大阪府(60), 兵庫県(22), 京都府(21), 奈良県(7), 滋賀県(7), 和歌山県(4)                                 |
| 九州・沖縄 | 86人     | 福岡県(40), 熊本県(10), 沖縄県(8), 長崎県(8), 大分県(7), 鹿児島県(5), 宮崎県(5), 佐賀県(3)                  |
| 北海道   | 72人     | 北海道(72)                                                                            |
| 中国    | 37人     | 広島県(13), 岡山県(10), 山口県(6), 島根県(4), 鳥取県(4)                                           |
| 四国    | 13人     | 香川県(11), 高知県(1), 徳島県(1), 愛媛県(0),                                                   |
| 計     | 6,168人  |                                                                                    |

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

## ②市区町村別（埼玉県・東京都・神奈川県）

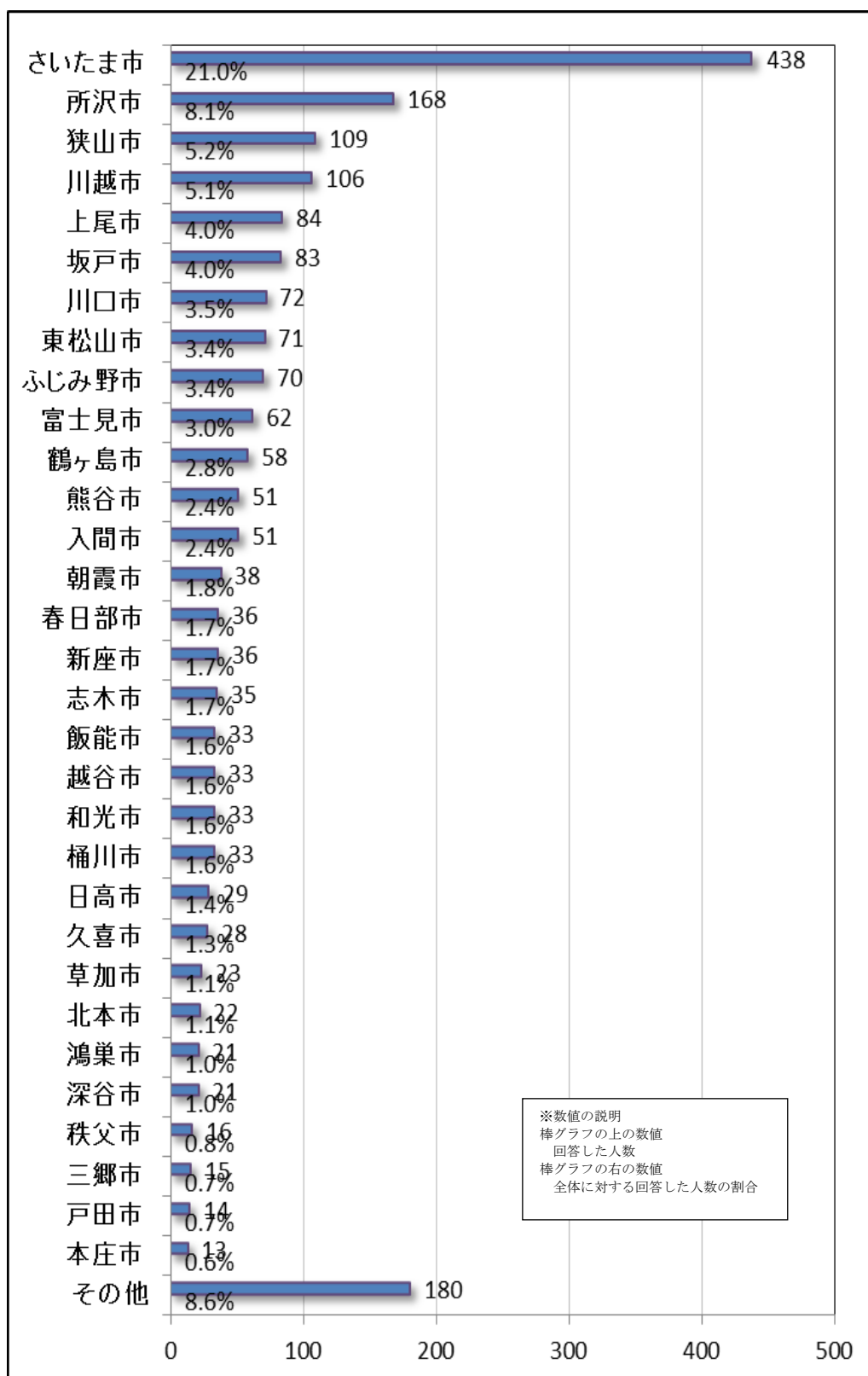
上位3位を占めた埼玉県、東京都、神奈川県の観光客について、市区町村別出発地は、図4（埼玉県）、図5（東京都）、図6（神奈川県）のとおりとなった。

### （ア）埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の21.0%を占め、前年よりも3.5ポイント増加した（平成24年度：17.5%）。距離の近さ、人口の多さ（1,255,743人、平成26年4月1日現在）、および、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因と考えられる。

その次に多かったのは、所沢市の8.1%であった。続いて第3位は狭山市（5.2%）、第4位は川越市（5.1%）、第5位は上尾市（4.0%）という結果だった。

(図 4) 埼玉県の市町村別出発地



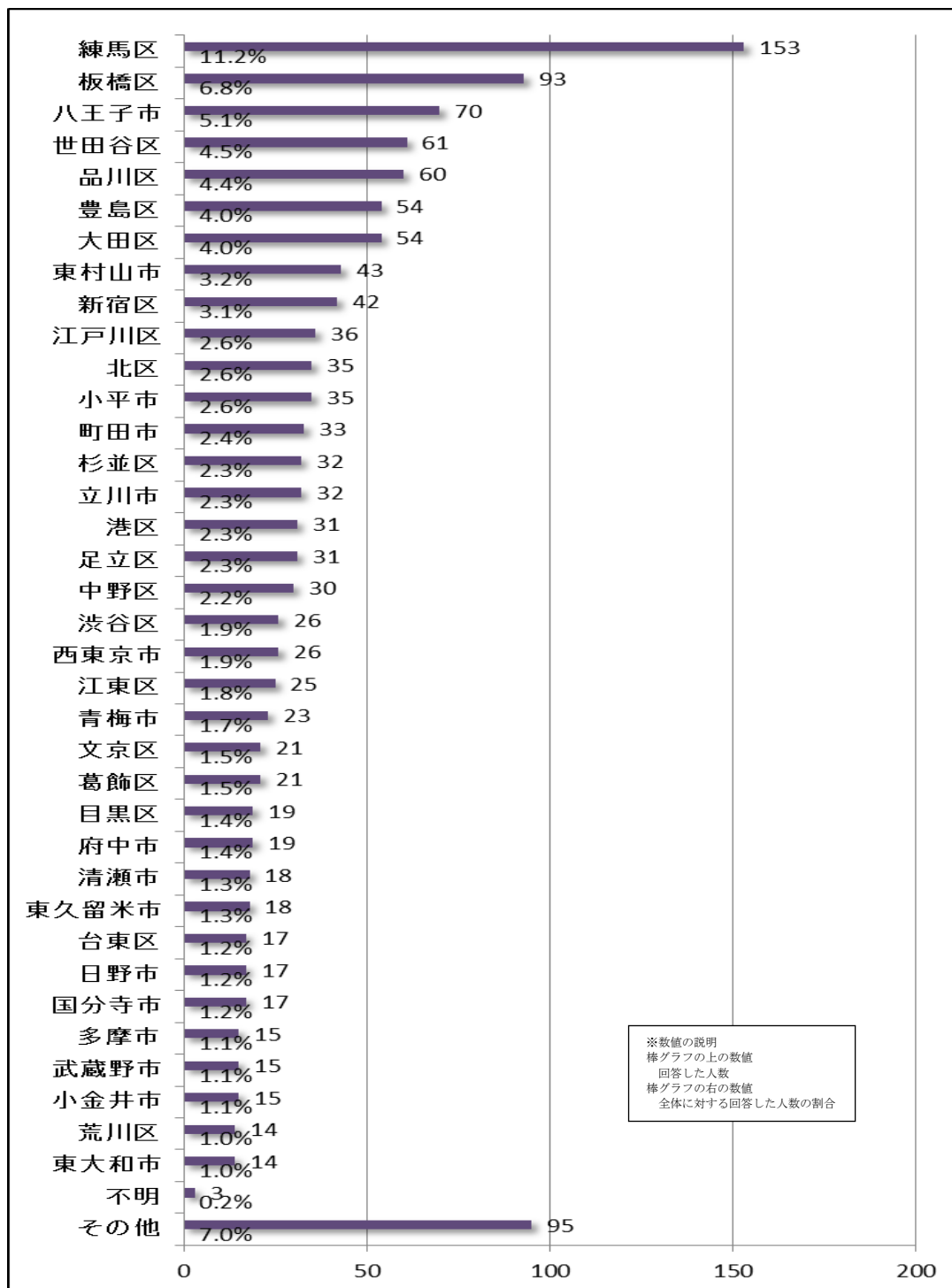


## (イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 11.2%を占めた。練馬区が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（712,407 人、平成 26 年 4 月 1 日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道 254 号）、関越自動車道（練馬 IC～川越 IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第 2 位は板橋区の 6.8%で、続いて第 3 位は八王子市（5.1%）、第 4 位は世田谷区（4.5%）、第 5 位は品川区（4.4%）という結果だった。

(図 5) 東京都の市区町村別出発地

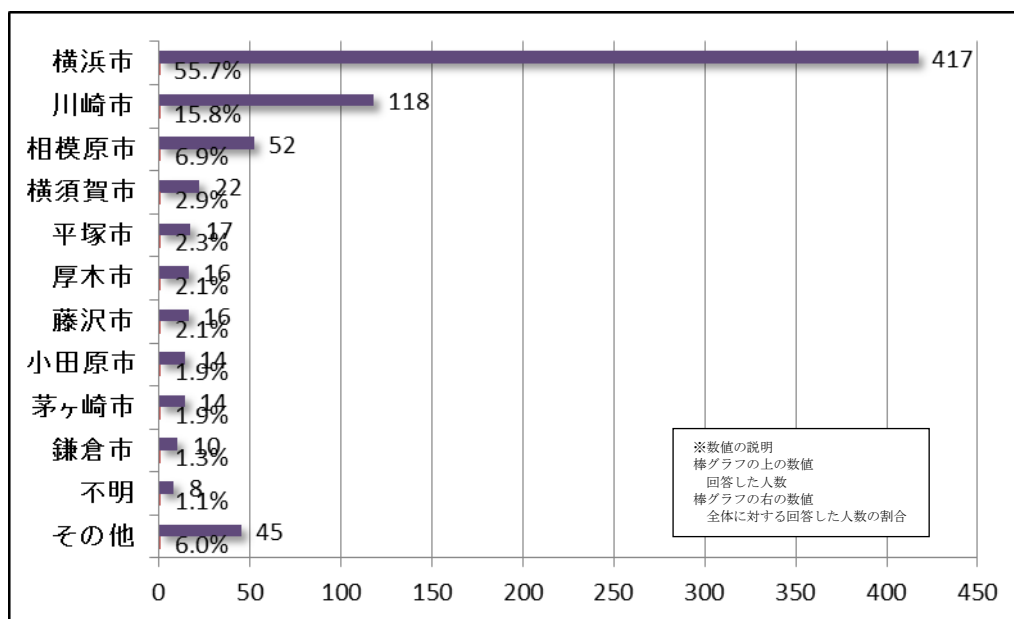


## (ウ) 神奈川県

神奈川県内の出発地で最も多かったのは横浜市であり、全体の 55.7%を占めた。横浜市が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（3,702,0937 人、平成 26 年 4 月 1 日現在）や、鉄道 5 社相互直通運転が平成 25 年 3 月 16 日に開始したことにより交通の利便性が増したと、相互直通運転に関連して川崎市が新聞・テレビ等で報道されたことが考えられる。

第 2 位は川崎市の 15.9%で、続いて第 3 位は相模原市（7.0%）という結果であった。

(図 6) 神奈川県の市町村別出発地



## (2) 国外

国外から出発した観光客は 197 人、3.1%で平成 24 年度の 114 人、1.8%から 1.3 ポイント増加した。国別では台湾（74 人）、アメリカ合衆国（26 人）、香港（17 人）、中国（17 人）、タイ（16 人）、韓国（13 人）が上位となった。（表 3）

川越市内の各案内所（川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所）の統計による平成 25 年の外国人観光客利用者数の上位国は、国別では 1 位が台湾、2 位が中国（香港含む）、3 位がアメリカ合衆国、4 位が韓国、5 位がタイ、6 位がシンガポール、7 位がフランス、8 位が豪州、9 位が英国、10 位がドイツであった。上位 5 か国の内、4 か国を東アジアからの旅行者が占める結果となった

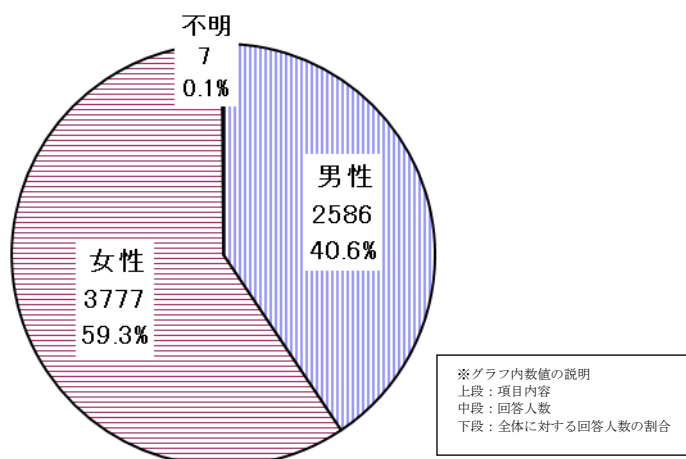
(表 3) 国別出発地

| 国 名                                          | 回答者数    |
|----------------------------------------------|---------|
| 台湾                                           | 7 4 人   |
| アメリカ合衆国                                      | 2 6 人   |
| 香港                                           | 1 7 人   |
| 中国                                           | 1 7 人   |
| タイ                                           | 1 6 人   |
| 韓国                                           | 1 3 人   |
| シンガポール                                       | 5 人     |
| フランス                                         | 4 人     |
| ドイツ、フィリピン、ブラジル                               | 各 3 人   |
| イギリス、インドネシア、オーストラリア、マレーシア                    | 各 2 人   |
| インド、オランダ、カナダ、スペイン、パキスタン、フィンランド、<br>ブルガリア、ペルー | 各 1 人   |
| 計                                            | 1 9 7 人 |

## 2－3－2 性別

性別は、平成 24 年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が 59.3%、男性が 40.6%という結果となった。（図 6）

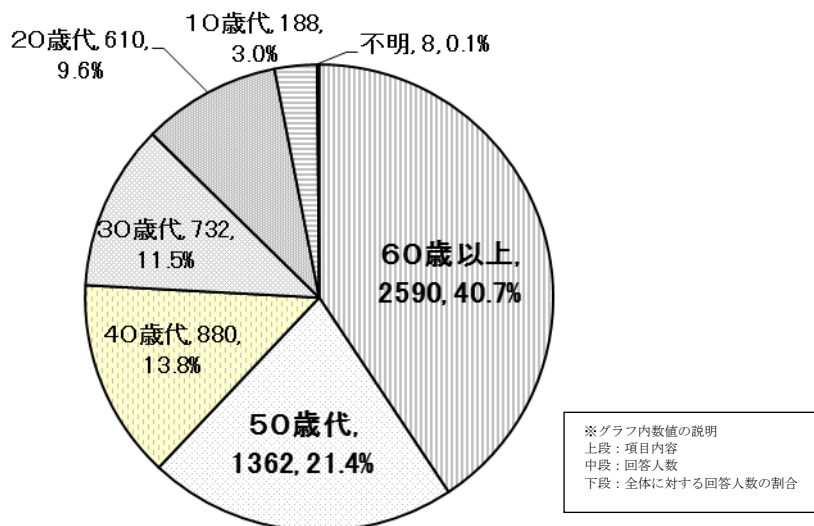
(図 6) 性別



### 2-3-3 年齢

年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。（図 7）  
50 歳代以上の中高年層が過半数の 62.1% という結果だった。

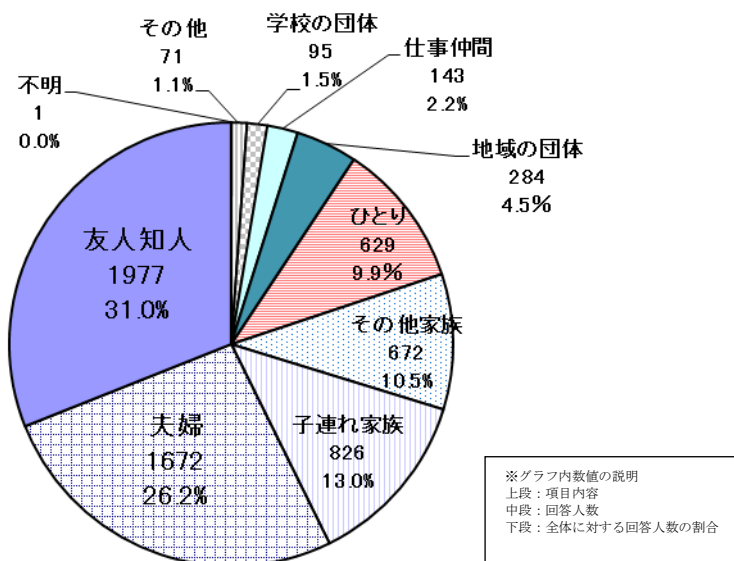
（図 7） 年齢



### 2-3-4 同行者

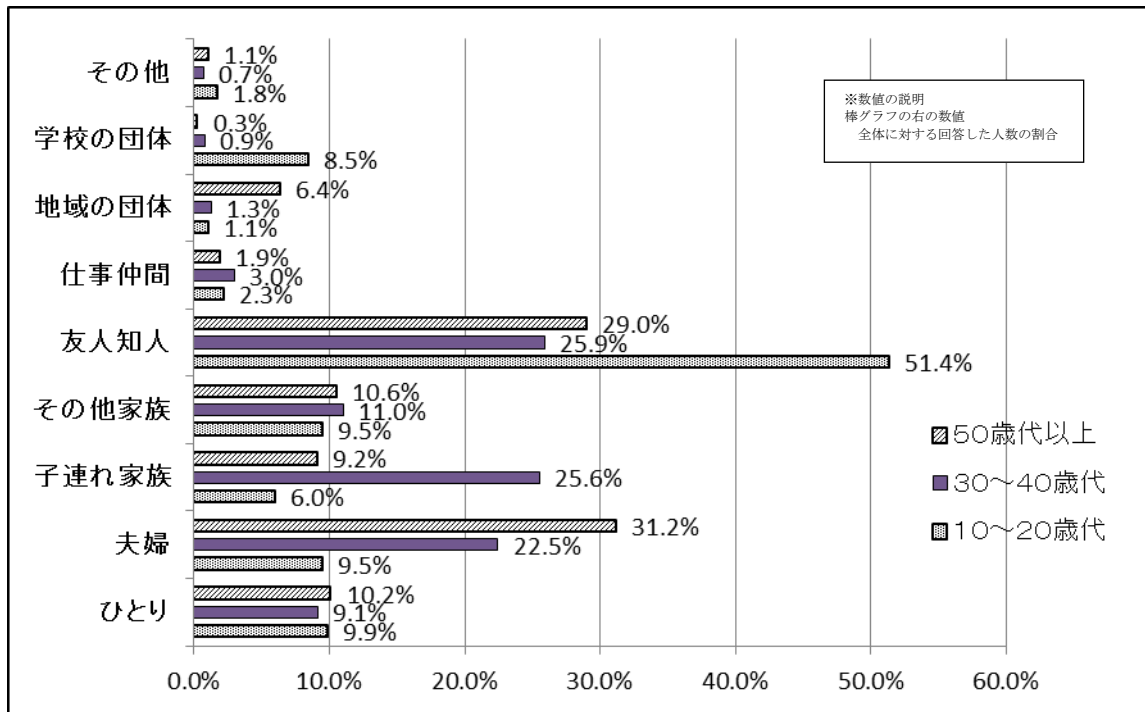
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かった（31.0%）。夫婦（26.2%）、子連れ家族（13.0%）やその他家族（10.5%）を含めると、家族で川越を訪れる観光客は 49.7% と約半数を占める結果となった。（図 8）

（図 8） 同行者



また、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20 歳代では友人知人（51.4%）の割合が最も多く、30～40 歳代でも友人知人（25.9%）の割合が最も多かった。50 歳代以上では夫婦（31.2%）の割合が最も多かった。（図 9）

（図 9）

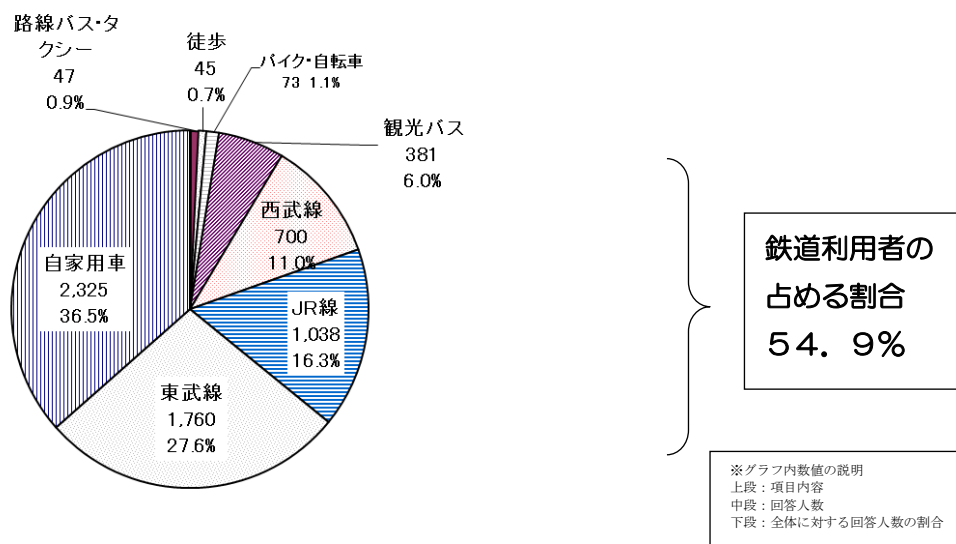


## 2-3-5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用率を合計すると約半数（54.9%）になり、平成 24 年度の利用率（50.9%）より 4 ポイント増加した。

また、自家用車の利用率（36.5%）は前年に比べて 2.3 ポイント減少した（平成 24 年度は 38.8%）。（図 10）

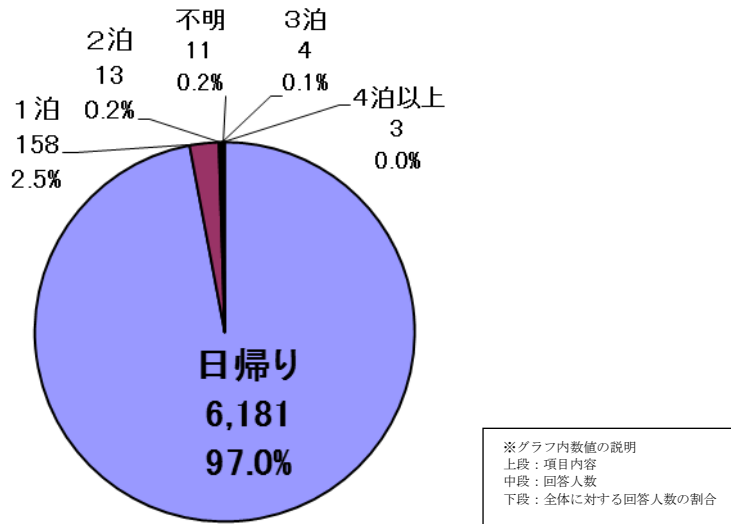
（図 10） 交通手段



### 2-3-6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが 97.0%と、大半を占めた。平成 24 年度（日帰りが 97.2%）より 0.2 ポイント減少した。（図 11）

（図 11） 滞在期間



### 2-3-7 宿泊観光客

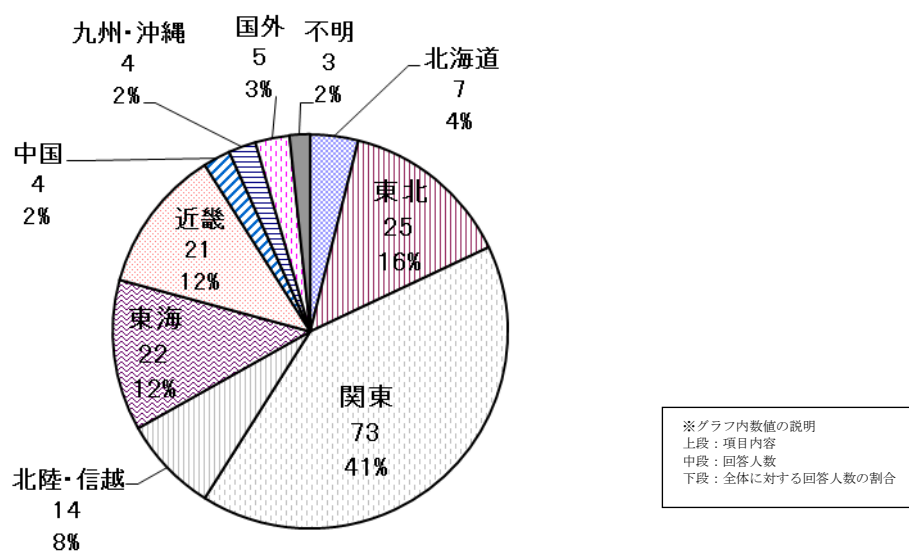
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.8%（178 人）だった。そのうち国外が出発地の観光客は 5 人だった。

国内の出発地の地方別内訳は(図 12)、都道府県別内訳は(図 13)のとおりである。

都道府県別では、東京都が最も多く（23 人、12.9%）、次点は神奈川県（20 人、11.2%）だった。第 3 位は千葉県（15 人、8.4%）だった。

国外の出発地は、台湾、香港が各 2 人、イギリスが 1 人だった。

（図 12） 宿泊観光客の地方別出発地



(図 13) 宿泊観光客の都道府県別出発地

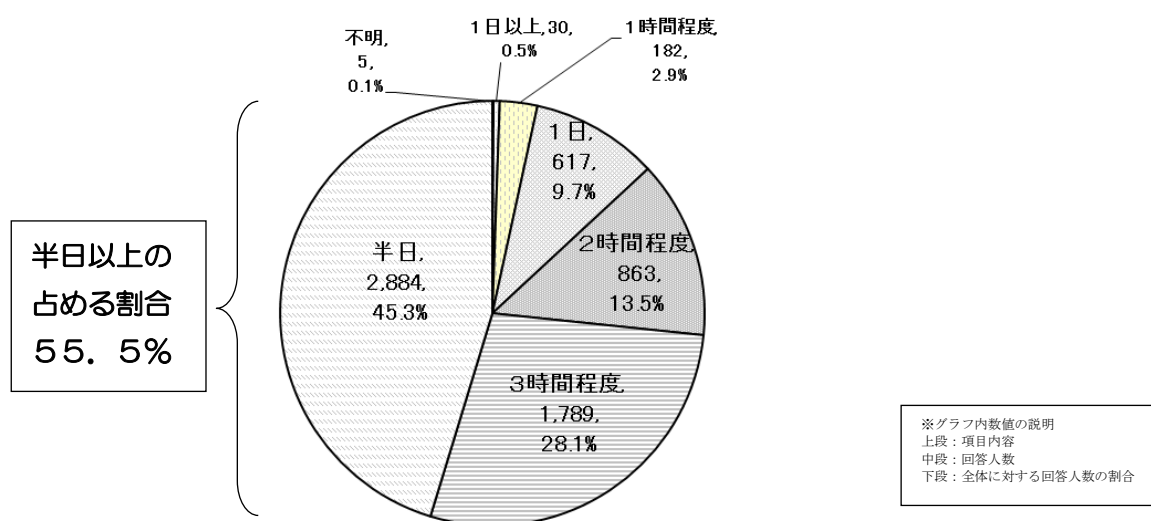


## 2-3-8 観光時間

川越は日帰り観光が主力となっていることから、観光時間が3時間程度から半日の観光客が大半を占めた。(図14)

平成22年度以降の観光アンケート調査と比較すると、観光時間が1～3時間程度の観光客率の推移は51.2%（平成22年度）→44.9%（平成23年度）→44.1%（平成24年度）→44.5%（平成25年度）となっており、半日以上の観光客率の推移は48.5%（平成22年度）→55.1%（平成23年度）→55.9%（平成24年度）→55.5%（平成25年度）となっており、滞在時間について微減した。

(図14) 観光時間

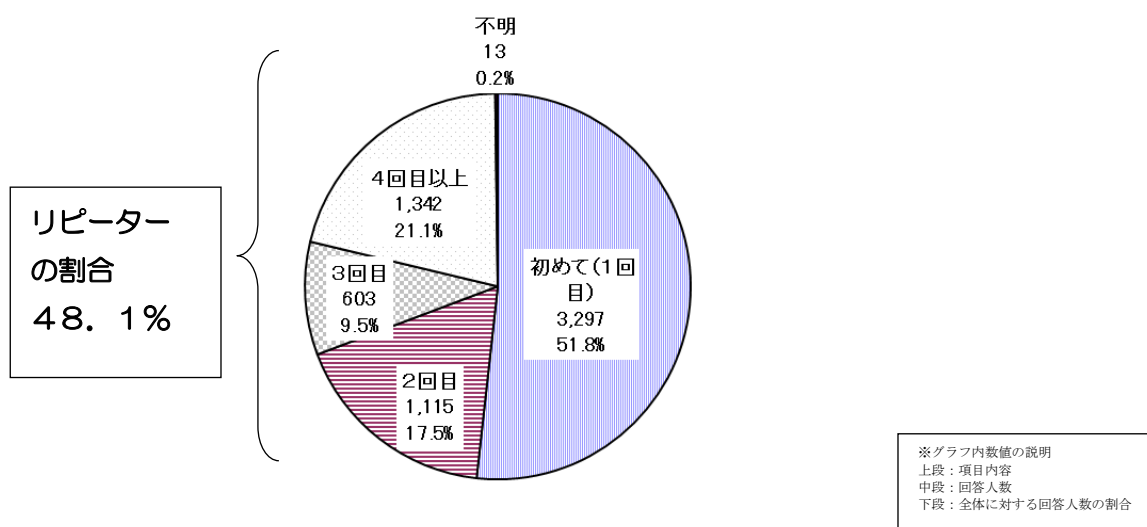


## 2-3-9 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は51.8%で、平成24年度の46.1%から5.7ポイント増加した。2回以上訪れている「リピーター」は48.1%だった。(図15)

リピーターの中でも4回以上訪れているリピーターが多くを占めた(21.1%)。

(図15) 来訪回数

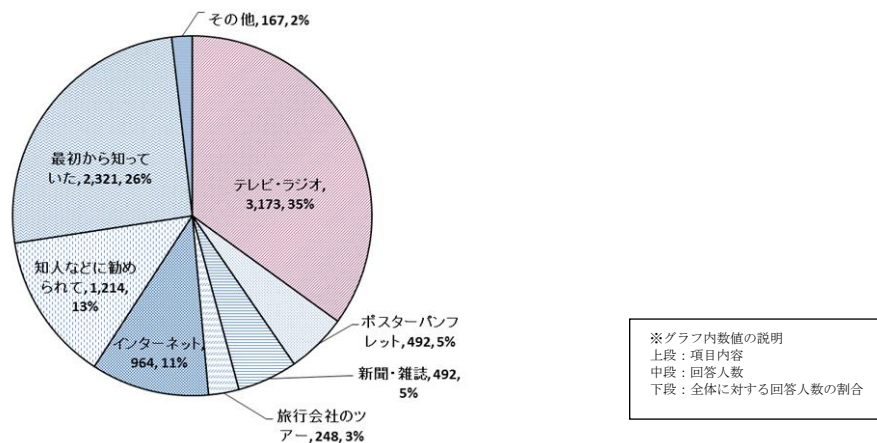




## 2-3-10 認知方法

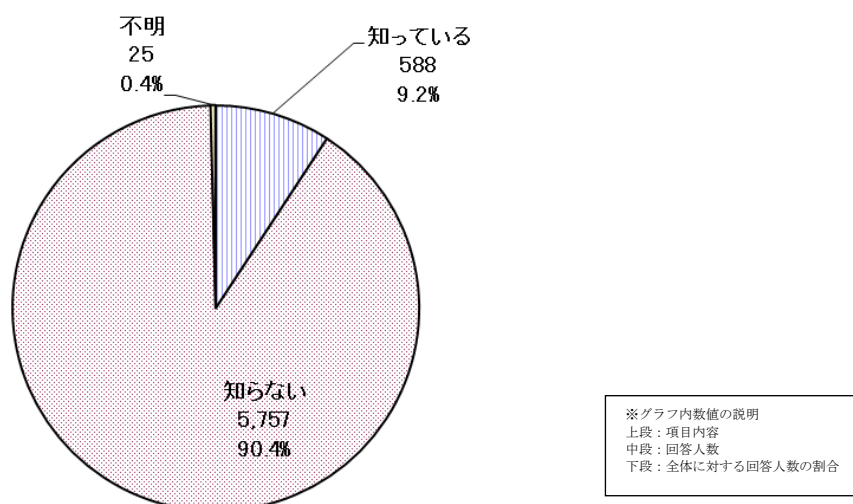
川越を知った方法は、テレビ・ラジオが 35%と最も多く、平成 24 年度の 32%から 3 ポイント増えた。「最初から知っていた（地元の人を含む）」は、平成 25 年度は 26%で、地元の方（川越市）を除くと 2,221 人となり、24.5%という結果となった。

(図 16) 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（川越市のマスコットキャラクターで、平成 22 年 3 月に誕生した。時の鐘とサツマイモをモチーフにしたキャラクター。表紙参照。）の認知度についても調査を行った。「ときも」を知っていると答えた人は全体の 9.2%で平成 24 年度の 10.0%から 0.8 ポイント減少した

(図 17) 「ときも認知度」

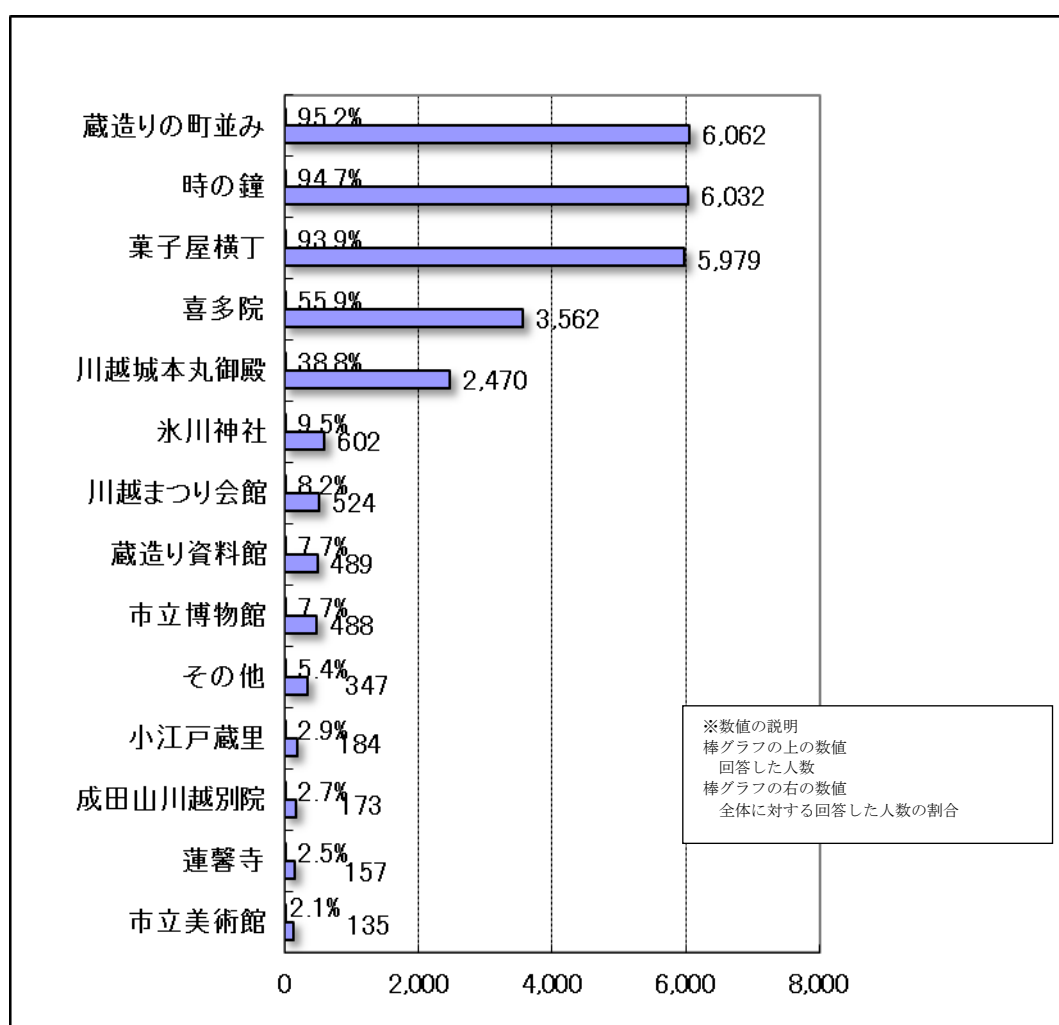


## 2-3-11 立ち寄り観光地

立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は9割以上の観光客が訪れていた。平成24年度は蔵造りの町並み93.1%、時の鐘92.9%、菓子屋横丁92.0%であり、いずれも増加した。（図18）その次に多かったのは喜多院で55.9%の観光客が訪れていた。第5位は川越城本丸御殿（38.8%）だった。また、氷川神社が平成24年度の8.4%から9.5%と増加した。

また、観光客一人につき、平成25年度は平均4.3箇所の観光地を訪れていたが、平成24年度の4.3箇所と同様の結果であった。

（図18） 立ち寄り観光地



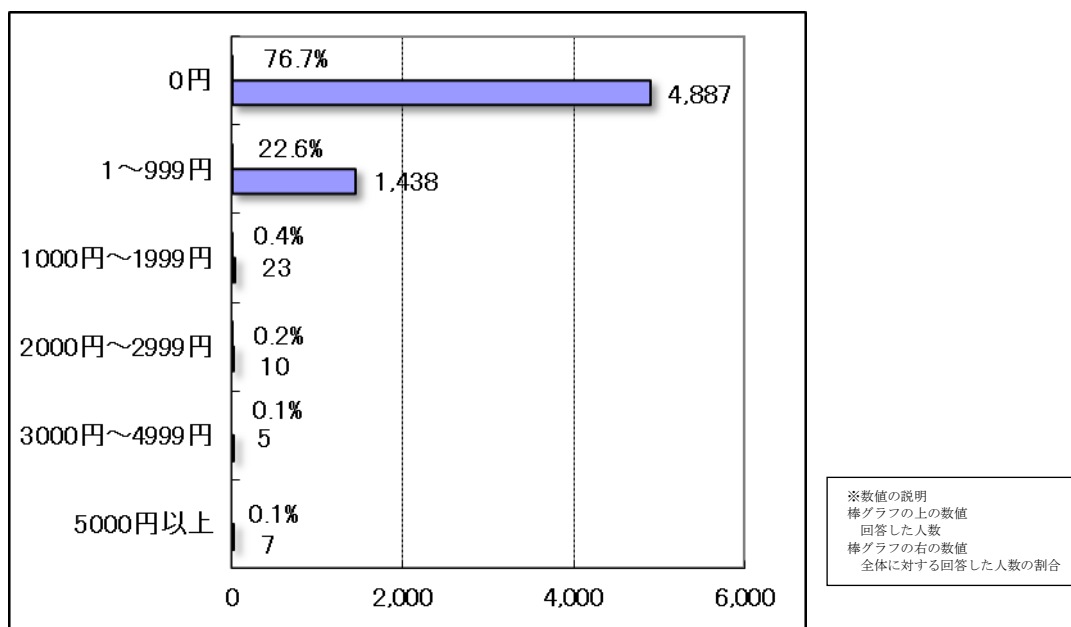
※回答者1人につき、複数回答あり

※割合 (%) は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数（6,370人）で割ったもの

### 2-3-12 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が 76.7%と大半を占めているが、平成 24 年度の 79.7%から 3.0 ポイント減少した。「支出する」割合はおよそ 23.3%であり、そのほとんどは 1,000 円未満の支出だった。また、一人あたりの平均交通費は 437 円であり、平成 24 年度の 392 円よりも 45 円増加した。（図 19）

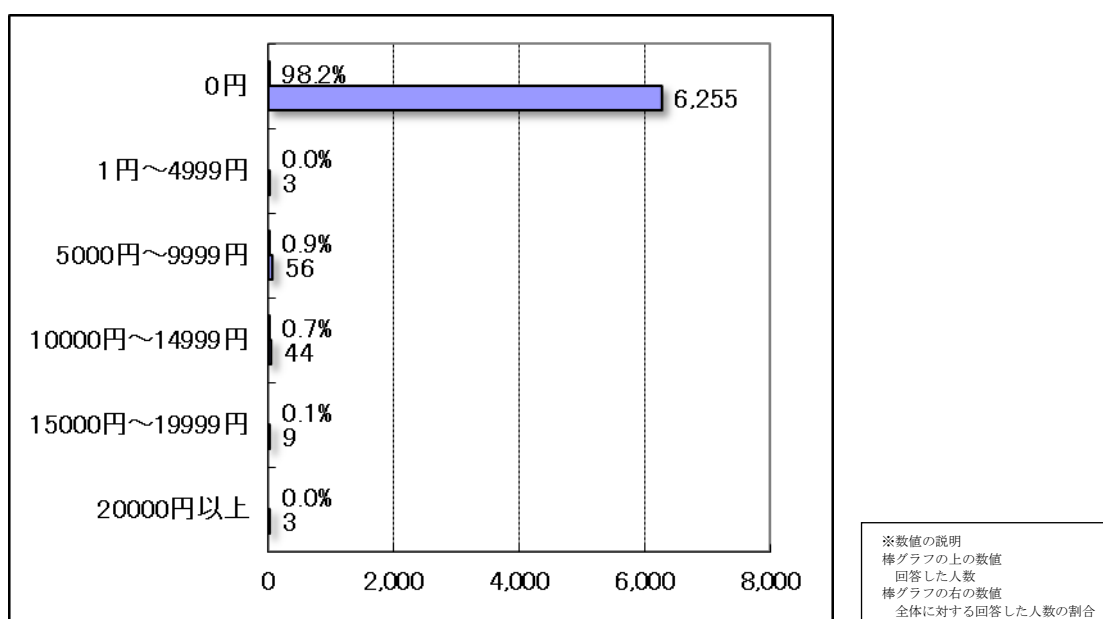
（図 19） 交通費



### 2-3-13 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の 98.2%で、前年度から 0.2 ポイント減少した（平成 24 年度：98.4%）。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は 9,698 円で、平成 24 年度の 10,436 円よりも 738 円減少した。（図 20）

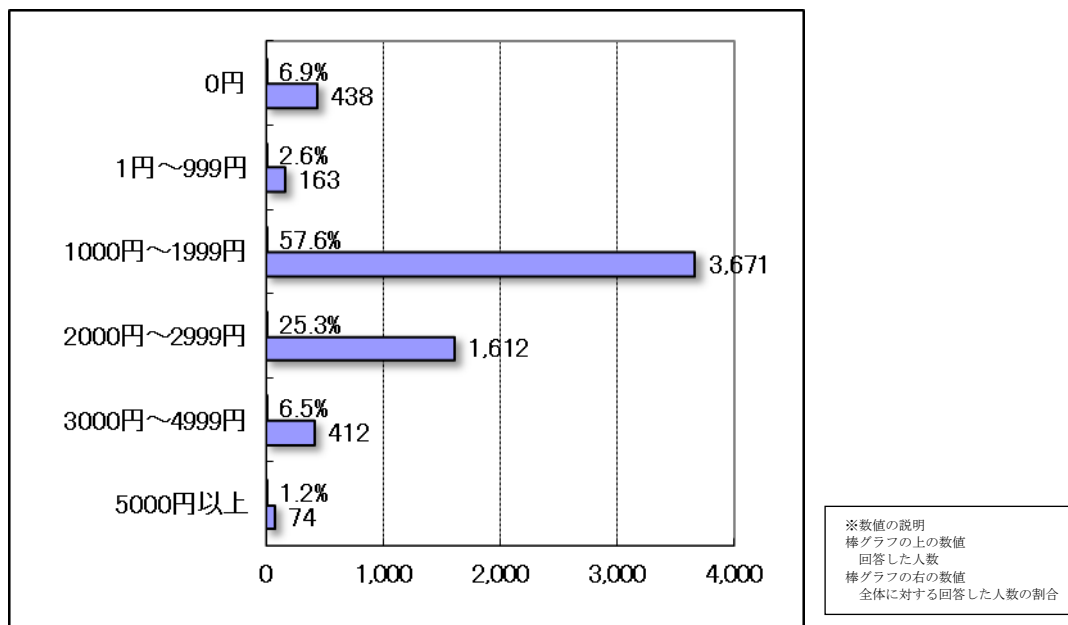
（図 20） 宿泊費



## 2-3-14 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が 6.9%であり、平成 24 年度の 7.7%と比較して、0.8 ポイント減少した。飲食費は 1,000 円台が最も多く、一人あたりの平均飲食費は 1,623 円で、平成 24 年度の 1,601 円より 22 円増加した。（図 21）

（図 21） 飲食費

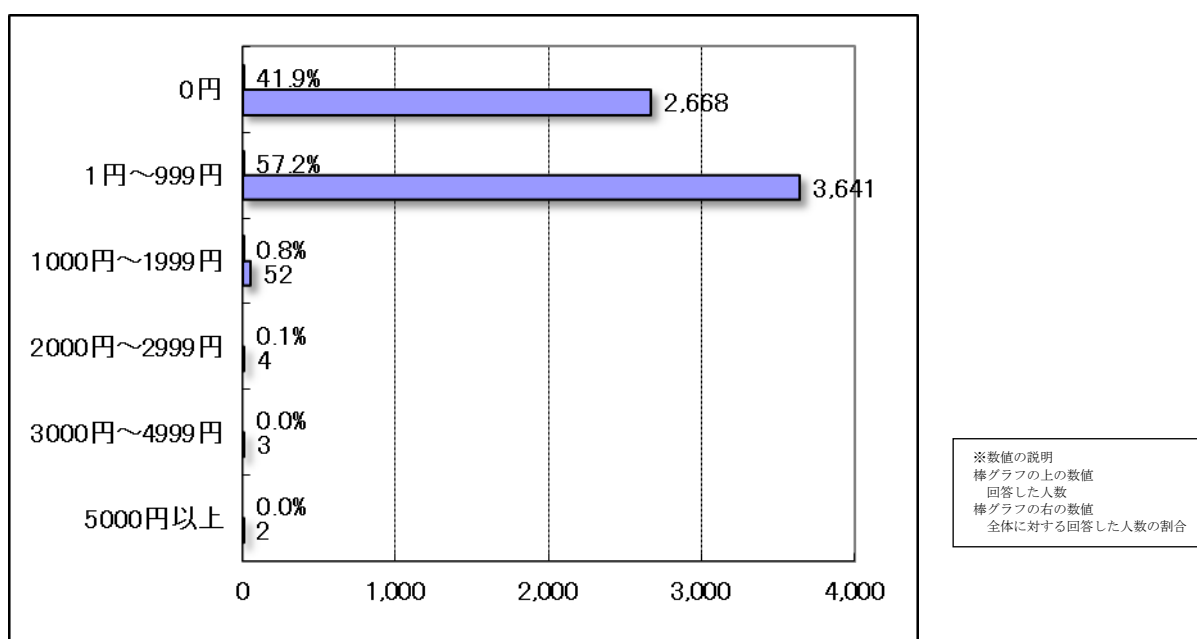


## 2-3-15 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が 41.9%であり、平成 24 年度の 40.9%と比較して、1.0 ポイント増加した。入館料・入場料の支出は 1,000 円未満が最も多く、一人あたりの平均入館料・入場料は 392 円で、前年度の 426 円よりも 34 円減少した。

（図 22）

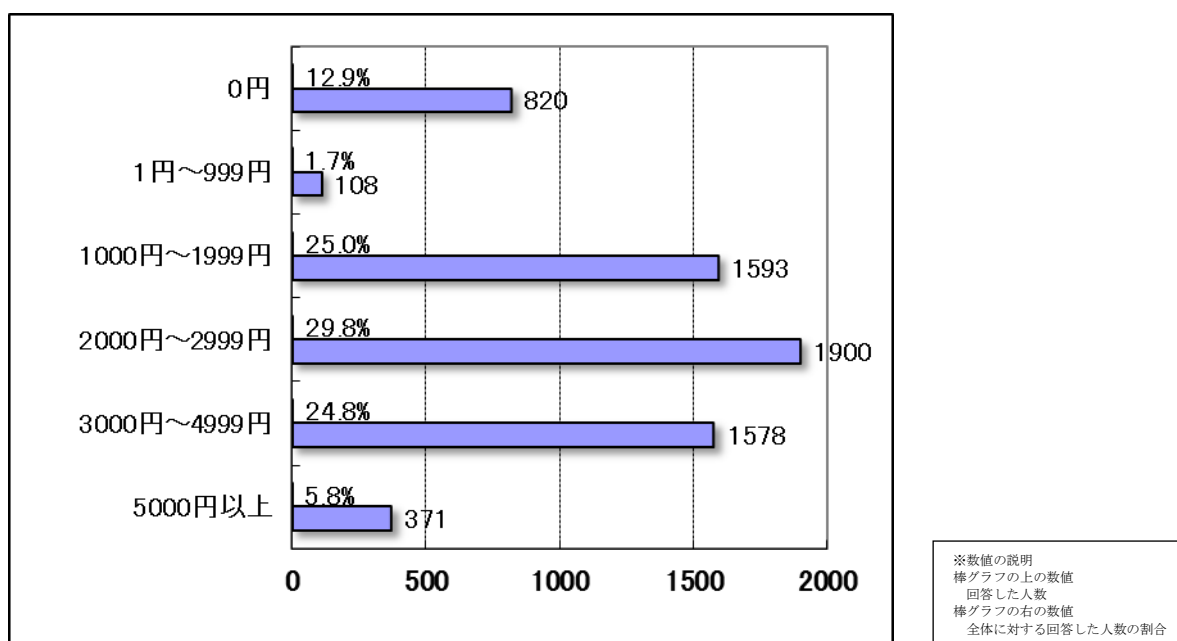
（図 22） 入館料・入場料



## 2－3－16 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、「支出なし」が 12.9%であり、前年度の 14.8%に比べて 1.9 ポイント減少した。お土産購入費は、2,000 円以上、3,000 円未満が最も多く、1 人あたりの平均購入額は 2,314 円で、前年度の 2,344 円と比較して 30 円減少した。（図 23）

（図 23） お土産品購入費

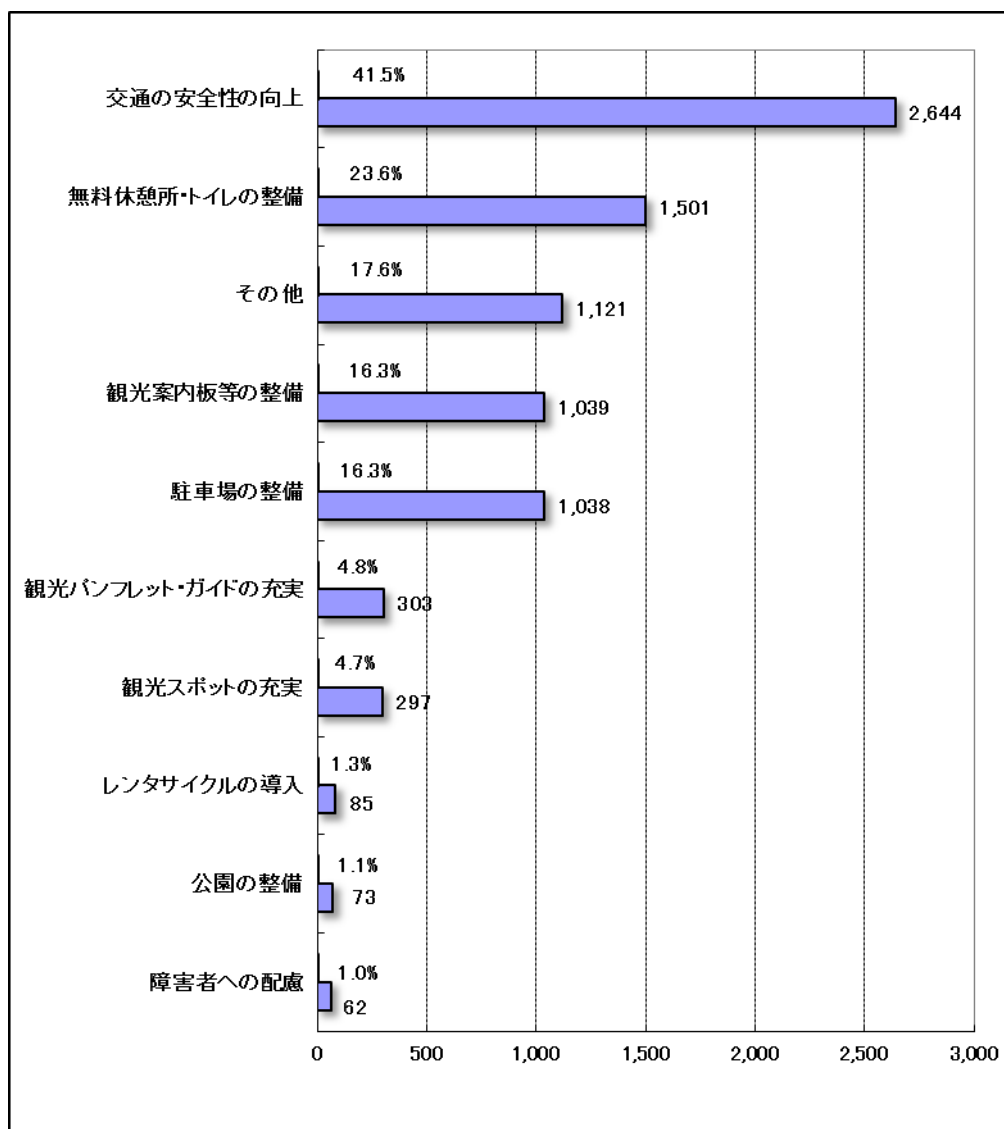


## 2-3-17 要望

「交通の安全性の向上」（41.5%）が要望として最も多いが、平成 24 年度 40.4%と比べて 1.1 ポイント増加した。（平成 23 年度は 40.7%）。（図 24）

次点は、「無料休憩所・トイレの整備」（23.6%）で、3 番目に「その他」（17.6%）でという結果であった。

（図 24） 要望



※回答者 1 人につき、複数回答あり。（%）は回答者総数（6,370 人）に対する割合である。

## 2-3-18 意見・感想

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。中でも一番街の交通安全対策や歩行者天国の実施を求める声が最も多く、多くの観光客が、道幅が狭く交通量の多い一番街に危険を感じていることが窺えた。その他の意見としては、観光案内板や休憩施設の整備などを求める意見があった。また、子供が遊べる場所や授乳できる場所の表示など、子連れ家族に対する配慮を求める声もあった。トイレについて、場所の明示や清潔化を求める意見・要望があった。（表4）

（表4）川越に対する主な意見・感想

- ・歴史を感じるよい町だ。
- ・休日は歩行者天国にしてほしい。
- ・蔵の街の狭い道路に交通量が多くて怖い。
- ・路上駐車が多くて危険です。
- ・直通電車で来たが、大変便利でよい。
- ・川越は最近テレビによく出ている。
- ・巡回バスを一本化してほしい。
- ・観光バスの乗り場が別々で非常にわかりにくい。
- ・道が狭いので、歩行者が危ない。
- ・道路の車いす対策をしてほしい。
- ・アニメ「神様はじめました」が好きで、来ました。
- ・授乳室の完備と、表示をしてほしい。
- ・屋根のある休憩所を整備してほしい。
- ・足が悪いので、座って一休みできる場所がほしい。
- ・駐車場の案内を道路の目立つ場所に設置してほしい。
- ・蔵の街にコンビニや子どもの遊べる場所がほしい。
- ・子どもの遊び場を市の中心部にもつくってほしい。
- ・蔵里はおみやげが買えて便利だが、駐車場がないのが不便。
- ・喜多院や本丸御殿に中国語や英語のパンフレット・イヤホンガイドがないのは不便。
- ・トイレの場所がわかりにくい。
- ・喜多院の公衆便所が汚い。
- ・本丸御殿から喜多院に歩いてくるとき、道がわかりづらい。
- ・駅から来る時の道がわかりにくいので、案内板を設置してほしい。
- ・ときもを見たい。
- ・きものの日を知って、またぜひ次回きもので来たい。
- ・喫煙所を設けてほしい。
- ・東照宮を観覧できるようにしてほしい。
- ・市内の案内板が少ない。
- ・外国人向けの案内板を設置してほしい。
- ・はっきりと明示されたバイク置き場がない。

### 3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産品購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成24年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成25年の入込観光客数は630万2千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため(11ページ、図8参照)、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数630万2千人の約40%の252万人と仮定し(平成24年度は623万7千人の約40%である249万人を用いた)、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

(表5) 消費項目別の観光客平均消費額

| 項 目     | 消費活動率<br>※① | 平均消費額<br>※② | 消費活動人数<br>※③ | 消費総額<br>※④       |
|---------|-------------|-------------|--------------|------------------|
| 交 通 費   | 23.3%       | 437 円       | 587,160 人    | 256,588,920 円    |
| 宿 泊 費   | 1.8%        | 9,698 円     | 45,360 人     | 439,901,280 円    |
| 飲 食 費   | 93.1%       | 1,623 円     | 2,346,120 人  | 3,807,752,760 円  |
| 入館料・入場料 | 58.1%       | 392 円       | 1,464,120 人  | 573,935,040 円    |
| お土産品購入費 | 87.1%       | 2,314 円     | 2,194,920 人  | 5,079,044,880 円  |
| 計       |             |             |              | 10,157,222,880 円 |

※①消費活動率…アンケート回答者総数(6,370人)に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数252万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産品費の約50億7900万円で、最も低かったのは交通費の約2億5600万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の9,698円で、最も低かったのは、入場料・入館料の392円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約101億5700万円となった。平成24年度の結果(約98億9300万円)と比較すると、約2.7%の増加となった(図25)。

各項目で見ると、交通費は前年度に比べ約29.5%、宿泊費が約5.8%増、飲食費が約3.5%増、お土産品購入費は約2.1%増と増加した。入館料・入場料が約8.4%減と減少した(表6参照)。



(表 6) 平成 24 年度の消費項目別の観光客平均消費額

| 項 目     | 消費活動率<br>※① | 平均消費額<br>※② | 消費活動人数<br>※③ | 消費総額<br>※④      |
|---------|-------------|-------------|--------------|-----------------|
| 交 通 費   | 20.3%       | 392 円       | 505,470 人    | 198,144,240 円   |
| 宿 泊 費   | 1.6%        | 10,436 円    | 39,840 人     | 415,770,240 円   |
| 飲 食 費   | 92.3%       | 1,601 円     | 2,298,270 人  | 3,679,530,270 円 |
| 入館料・入場料 | 59.1%       | 426 円       | 1,471,590 人  | 626,897,340 円   |
| お土産購入費  | 85.2%       | 2,344 円     | 2,121,480 人  | 4,972,749,120 円 |
| 計       |             |             |              | 9,893,091,210 円 |

消費総額が増加した主な要因の一つとしては、平成 25 年の入込観光客数が過去最高の 630 万 2 千人を記録したこともあり、それに伴って消費総額が増加したと考えられる。

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。（表 7）

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」（ホテルや旅館に宿泊と推定）と「宿泊費を支出しない観光客」（家族や友人の家などに宿泊と推定）がいたため、両者を区別して算出した。

(表 7) 滞在形態別の観光客平均消費額

| 項 目            | 人数（人） | 平均消費額（円） |
|----------------|-------|----------|
| 宿泊観光客（宿泊費支出あり） | 101   | 16,083   |
| 宿泊観光客（宿泊費支出なし） | 77    | 4,767    |
| 日帰り観光客         | 6,192 | 3,826    |
| 全体             | 6,370 | 4,032    |

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 16,083 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 4,767 円、日帰り観光客は 3,826 円だった。

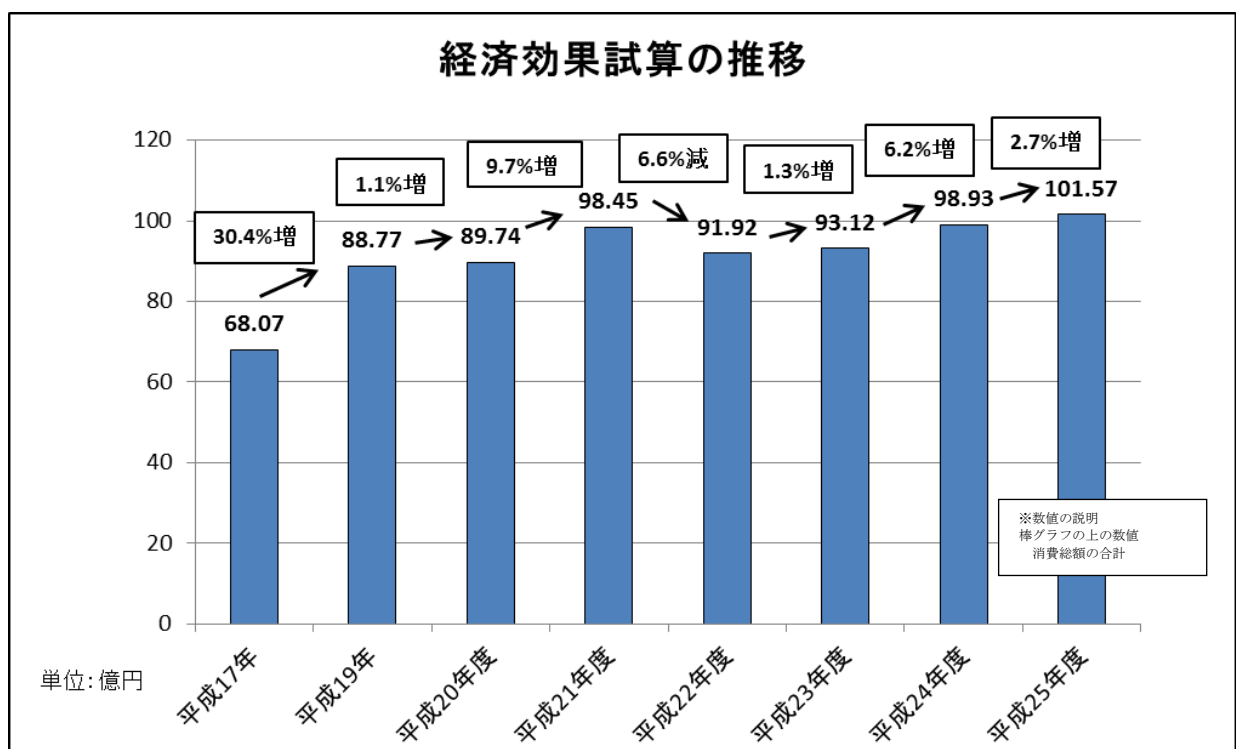
また、観光客全体では 4,032 円だった。3,975 円だった平成 24 年度と比較すると、57 円増加した。

次に、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く）で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,130 円、30～40 歳代の平均消費額は 3,862 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,283 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増えていくことが分かった。（表 8）

(表 8) 世代別の観光客平均消費額

| 項 目      | 人数 (人) | 平均消費額 (円) |
|----------|--------|-----------|
| 10～20 歳代 | 798    | 3, 130    |
| 30～40 歳代 | 1, 612 | 3, 862    |
| 50 歳代以上  | 3, 952 | 4, 283    |

(図 25) 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。



川越市観光アンケート調査報告書 平成25年度

平成26年5月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940（直通） 049-224-8811（代表）

FAX 049-224-8712